

【目次】

プロローグ 某テレビ番組収録スタジオにて	2
第一話 赤貝翔汰くんは『チン出し子役』で再ブレークを狙う！	5
第二話 赤貝翔汰くん、チンチン丸出しの体当たり演技で返り咲く	23
『チン出し演技』で話題の赤貝翔汰くんに独占インタビュー	51
第三話 映画主演でさらなる過激撮影！第2のチン出し子役も登場！	62
【番外編】うれし恥ずかし拓也くんのチン出しオーディション	92
第四話『チン出し子役』赤貝翔汰くんの精通は撮影中に！	108
『朝倉ケンタの大騒動』の宮本監督に独占インタビュー	136
第五話 いに映画公開！『チン出し子役』ブームが訪れた！	144
今話題の『チン出し子役』特集！	167

現在は音楽番組の収録中だ。

人気MCモリー・林田が軽快に次の出演グループを紹介した。「それでは続いているのグループは、いま巷で話題沸騰のチン出し小学生アイドル『♪はだかんボーイズ♪』です！ 歌うはもちろんでビュー曲『ボクらははだかんボーイズ』！ それでは張り切ってどうぞ！」

林田の言葉が終わると共に、舞台袖から3人の少年が現れた。

1人目は『♪はだかんボーイズ♪』リーダーの赤貝翔汰。あかがいしやうたこの時小学5年生。

数年前には某ホームドラマの三男役を演じて大人気だった少年だ。

しばらく落ち目だった子役だが、あることがきっかけで再ブレークを果たした。

2人目は『♪はだかんボーイズ♪』の弟キャラ青木拓也。あおきたくやこの時小学3年生。

かわいらしい言動と、その中に時々現れる毒のある台詞が女性に大人気のちびっ子だ。

今日もはにかむ笑顔で登場すると、観客席から「たっくん、こっち向いて〜」とお姉さんたちの黄色い声援が響いた。

3人目は『♪はだかんボーイズ♪』最年長の木島ふとし。きじまこの時小学6年生。

体重90キロはある巨漢だが、それに反した恥ずかしがり屋で泣き虫な性格が一部マニアにウケていた。

今日も恥ずかしそうに小さな体を震わせている。

3人とも、右手にハンドマイクを持ち、ハチマキを巻いていた。

ハチマキの色は翔汰が赤、拓也が青、ふとしが黄色だ。よく

見てみれば、それぞれの靴と靴下にもハチマキと同じ色のライオンが入っているようだ。さらに言えばマイクのヘッド部分もそれぞれの色になっていた。

ハチマキ、靴、靴下、それにマイク。

3人の衣装はその4つだけ……いや、ハンドマイクは普通衣装とはいわないから、ハチマキと靴と靴下の3つだけが彼らの衣装の全てだ。

肩もお腹も手足も背中もお尻もオチンチンもみんな丸出しの全裸。

これが彼ら『♪はだかんボーイズ♪』の正式衣装なのだ。

翔汰はどうしようと、拓也はむしろ目立つように突き出して、ふとしては恥ずかしそうに身をよじらせて、それぞれのおちんちんを観客とカメラの前へと晒していた。

恥ずかしそうにしているふとしもおちんちんを手で隠していないのは、本番前にプロデューサーの大塚から厳しく隠しちゃだめだと命じられているからだ。

やがてスタジオ内に音楽が流れ出し、『♪はだかんボーイズ♪』の3人は自らのデビュー曲を歌い始めた。

♪はだかんぼうでも気にしな〜い♪

♪おしり丸出しだいじょ〜ぶ♪

♪ちんちん見られても平気だよ♪

♪『でも恥ずかしくないの？』（↑男の声）♪

♪はずかしくな〜い♪

♪おしりペシペシ、ちんちんぶらぶら♪

♪ボクらははだかんボーイズ♪

文字通り、おちんちんをブラブラさせるダンスをしながら歌う『♪はだかんボーイズ♪』の3人。

その歌声もダンスも上手いとは言えない。

練習を頑張ったのは見て取れるが、プロとして音楽番組に出るには不足だろう。

だが、3人の小学生が堂々とおちんちんを揺らしながら一生懸命にがんばる姿は、会場とお茶の間を大いに沸かせていた。

現在テレビ業界は空前のちびっ子オチンチンブームだったただ中。

『子どものオチンチンは数字が取れる』

『男の子役はオチンチンをだして一人前』

『オチンチンを出したくないなら子役にはなれない』

業界ではまことしやかにそう言われるようになっていた。

そのきっかけを作ったのは、『♪はだかんボーイズ♪』リーダーの赤貝翔汰だ。

正確に言えば、彼の身に起きたある事件がきっかけだ。

まずは9ヶ月前の1月——翔汰がまだ4年生だった冬休みに時間を戻そう。

小学4年生の大晦日。子役の赤貝翔汰は雪が積もる神社で『日本のお祭り大発掘』という番組のロケを行っていた。

入社1年目だという完全防寒服姿の新人女子アナがカメラに向かって言った。

「日本のお祭り大発掘！ 大晦日の今日はT県のN神社にやってきました。ここでは毎年大晦日の午後22時から、元旦の午前1時まで珍しいお祭りが開催されるそうなんですよ〜」

まだカメラに映らない場所にいる翔汰は不機嫌な顔で思う。

（『元旦の午前1時』って言葉が重複しているだろ。それを言うなら『元日の午前1時』か『元旦の1時』だ。アナウンサーなら日本語は正確に話せよ）

翔汰が不機嫌な理由は別にアナウンサーの言い間違いのせい

ではない。今の自分のかつこうが理由だ。

赤いハチマキに赤い禪、それにわらじ。

それが今の翔汰が身につけている全てだった。

(寒いいいゝゝ)

翔汰は腕を組んでブルブル震えていた。

現在午後20時。昼過ぎまでは雪が降っていた。

「それでは今日お祭りに参加するゲストをお呼びしましょう！

元人気子役の赤貝翔汰くんです」

(おい！ 紹介で『元、人気子役』とかいってんじゃねーよ！)

内心キレながらそれでも表面上はにこやかに、赤フン姿で翔汰はカメラの前へと進んだ。

「こんにちは！ 子役の赤貝翔汰です。今日はよろしくお願います」

あえて、『子役』というところを強調して言ってやったが、女子アナが自分の失態に気づいた様子はない。

(落ち着け、僕。相手は新人アナウンサーだ。番組進行だけで手一杯なんだ)

翔汰は自分に言い聞かせながらカメラに向かって無邪気にな——あるいは無邪気さを装って——ピースサインをした。

「おー、翔汰くん元気ですねえ。そうですね、もう皆さんお気づきですね。この神社で大晦日に行われるのは『ちびっ子裸祭り』です。今日は元子役の翔汰くんが、お祭りに参加してくれるので密着します」

(また『元』っていいやがった、この女子アナ)

思いつつも、もちろん顔には出さない。出していないはずだ。そのくらしいの演技はできる。

女子アナは右手に持った温度計をカメラに見せた。

「ただいまの気温は氷点下12.4℃。翔汰くん、そんなかつこうで寒くない？」

(寒いにきまつてんだろっ!!)

そう叫びたかったが、台本を無視するわけにはいかない。

「ちよつと寒いですけど、元気に頑張ります!」

「おおっ、頼もしい! それでこそ元人気子役の赤貝翔汰くんっ! 今日は頑張ってくださいねえ」

(また『元』っていいやがった。これで3回目だぞ)

そこでいったん撮影は中断。翔汰は神社の本殿へ向かった。

(つたく、なんで僕がこんな仕事をしなくちゃいけないんだよ!)

もちろんその答えは決まっている。

翔汰が落ち目の子役だからだ。

翔汰は1年生の時、とあるホームドラマの三男役として華々しくデビューした。

ドラマは大ヒット。

翔汰は6歳にして超絶大人気子役となった。

どこに言ってもチャホヤされた。

ドラマだけでなく、子ども向けバラエティー番組にも進出した。

他の子役とくらべても特別扱い。

6歳にして写真集まで作ってもらった。

写真集発売の記念握手会には長蛇の列ができた。

最大月収は100万円を超えた。

自分は特別な子なんだと思いがりもした。

だが。

子役の賞味期限は短い。

翔汰の人気は1年ともたなかった。

それでも2年生の間は『昔取った杵柄』とでもいうのか、少しはドラマやバラエティー番組にも出演できた。

しかし、それも3年生前期まで。

4年生に進級したところには仕事なんてほとんど0となっていた。

女子アナのいう『元人気子役』という表現は、実のところまさに正鵠を射ていた。本人の前でカメラに向かって言うべき言葉かは疑問ではあるけれど。

それでも、いまさら普通の小学生になるのも悔しくて、翔汰は子役プロダクションに所属し続けていた。

今日の仕事は半年ぶりのテレビ出演だ。

極寒の大晦日に禪一丁で祭りに参加なんていう誰もが避けたい撮影だし、それだけ苦勞して放送されるのは夜の15分番組だ。が、それでも全国放送には違いない。

(ここからもう一度這い上がるんだ)

とんど不可能と思われた翔汰の願いは、意外な形で叶うことになる。

暗い雪道をふんどし姿の小学生男児たちが肩を組んで歩く。

『ワッショイ！ ワッショイ』

一番前の列の中央には赤フン姿の翔汰。

一番目立つ位置で、カメラは前方から翔汰を中心に撮影していた。

女子アナがなにやら実況しているが周囲の声で翔汰には聞こえない。

翔汰以外の少年たちは地元の小學生だ。

彼らは翔汰と違って白いふんどし姿だった。

赤フンは毎年、祭りの中心となる少年が身につけると決まっているそうだ。

例年は一番参加した回数が多い6年生の誰かが選ばれ、代表になると聞いた。

4年生で地元民でもない初参加の翔汰が選ばれたのは異例中

の異例らしい。

テレビ局側が、翔汰が目立つようにと無理を言ったのはあきらかだ。

そのせいか、他の少年たちにはいい目で見られていないらしい。カメラが回っていないところで、代表候補だった6年生に露骨に睨まれ、嫌味も言われた。

それどころか、祭りを進行する老人の1人が『なんで東京もんが代表なんだ』とブツブツ言っているのを聞いたくらいだ。

(ま、いいさ。気にしない気にしない。そんなことより、少しでも目立たないと……)

それぞれの思いをよそに、祭りが始まった。

現在23時30分。

きっと日本中の多くのご家庭は温かいこたつの中で紅白歌合戦を見ていることだろう。

一方、翔汰は氷点下の世界で禪一枚だ。

もっとも祭りが始まってからはそこまで震えていない。

『ワッショイ』と思いつきり叫びながら体を動かしていると、だんだんと温かくなってきたくらいだ。

だが。

翔汰の丸出しの肩に冷たさが走る。

思わず夜空を見上げると、いつの間にか再び雪が降り始めた。

雪はあっという間に本降りになり、裸の少年たちの頭にも積もっていく。

(マジかよ)

もちろんそんなことで祭りも撮影も中止にはならない。

やがて23時には吹雪ともいえるような悪天候になったが、

少年たちの『ワッショイ』という声は街中に響き続けた。

(ううう、これ風邪ひくдарろっ！)

祭りは少年たちの無病息災を願って行われるというが、絶対

に逆効果だと翔汰は思った。

23時50分ごろ。

少年たちは街外れの川原へとやってきた。

この頃には雪は小降りになっていた。

そこまでやってくると、翔汰は地元少年たちによって胴上げされた。

赤フン姿の代表は、毎年ここで胴上げされるらしい。

(ひえええ、あぶねえええ)

川原は砂地ではない。こぶし大の丸い石がたくさん転がっている。

もしも落とされたら骨折しかねない。打ち所が悪ければ最悪命すらあぶない！

それでも、翔汰は胴上げされるしかなかった。

祭りの進行の邪魔はできないし、ここはテレビ的にも見せ場だ。

夜とはいえ、撮影用の明かりで翔汰は照らされている。

これまでに大怪我した子はいないという、事前に番組プロデューサーから聞いた言葉を信じるしかない。

と、その時だった。

翔汰の赤フンの結び目を誰かが掴んだ。

(え?)

それは一瞬だった。あるいは一瞬の早業だったとも言える。

誰かが翔汰のふんどしの結び目をサツとほどいたのだ。

(ウソ!?)

翔汰は瞬間首をひねって誰の仕業か確かめた。

ハッキリとは分からなかったが、ニヤリと笑みを浮かべる少年が見えた。

それは祭りの開始前に翔汰に嫌味を言ってきた本来今年の赤フン候補だったという地元の6年生だった。

彼が本当に翔汰の禪にイタズラしたかは分からない。

むしろ位置的には彼以外の誰かが実行犯だった可能性が高い。だが、あのしたり顔をみるかぎり、彼が同級生なり下級生なりに命じてやらせた可能性は高いように感じられた。

いずれにせよ。

結び目がほどけた赤フンは、胴上げされるたびにどんどん緩んでいき、ついに翔汰の腰から地面へと落ちてしまった。

つまり、翔汰はおちんちん丸出しになってしまったのだ。

「ちよ、ちよと待って！ 禪がっ！」

翔汰は叫んだが、胴上げは終わらない。

翔汰はおちんちんをさらされたまま、なんども夜空に向かつて持ちあげられ、その姿をテレビカメラがじーっと撮影し続けた。

こんな時だけ、女子アナの実況がかすかに翔汰の耳にとどいた。

「おーっと、これはハプニング！ 翔汰くんの禪がはずれてかわいなおチンチンがまるだしになってしまいました〜」

おもしろハプニングだとも思ったのか、女子アナの実況はやたらとはしゃぎ声だった。

(くっそおお〜)

おチンチンを両手でかくそうにも、胴上げ中ではなかなか難しい。

(中略)

裸祭りで禪がほどけてしまい、翔汰のおチンチンが丸出しになった事件。それをハプニングを笑いものにするかのような放送がされてから1週間が経った。放送時間が夜の23時で、子どもが見るような番組で無かったのは翔汰にとって幸いだった。

た。
少なくとも小学校のクラスメートにからかわれたり、虐められたりするようなことはなかったのだから。

……この時点では。

そんな中、翔汰は子役プロダクションのマネージャーに呼び出された。

かつて、翔汰の人氣がすごかったころは翔汰専属だったマネージャーだが、最近はほとんど会うこともなかった。何しろ仕事がない子役の世話をするほどプロダクションのマネージャーは暇じゃない。

「お久しぶりです」

「ああ、久しぶりだね、翔汰くん」

頭を下げた翔汰に、マネージャーも手を上げて答えた。

「この間の裸祭りはお疲れ様。風邪とかひかなかった？」

「大丈夫でした……と言いたいですけど、お正月は少し扁桃腺が腫れました。熱までは出なかったですけど」

「おいおい、気をつけてくれよ。声が出なくなったら子役はどうにもならないよ」

(だったらあんな仕事やらせるなよ)

内心思うが、自分が仕事を選べる状況じゃないのは翔汰が一番よく分かっている。

「それでき、実はあの放送の後、反響がすごかったんだよね」

「反響ですか？」

「そ。翔汰くんがカワイイって」

「はあ……」

翔汰はつい気のない返事をしてしまった。

タレントとしてはあるまじき対応だが、彼としてはあんな放送とつと記憶から消去したいと思っていたのだから無理もない。

「ホントだよ。厳密に言うくと、翔汰くんのオチンチンかわい
って反響が多かったみたいだけど」

「オチンチン……」

頭を抱えなくなる話だ。

（僕はそんなことで目立ちたいわけじゃない。子役としてもう
一度返り咲きたいんだ）

少なくともこの時点では翔汰はそう思った。

だから、次の瞬間マネージャーから提案された言葉に、翔汰
は耳を疑った。

「そこでだ。翔汰くん。『チン出し子役』として再ブレイクを
狙ってみないか？」

「はい？」

意味が分からなかった。

「ま、そういう反応になるよね。説明する前に確認するけど、
翔汰くんって落ち目だよね。いや、あえて厳しい言葉を言えば、
人気は落ちるところまで落ちてるよね」

あんまりな言葉だったが現実だ。翔汰は「……はい」とうな
ずくしかない。

「僕はこれまで色々な子役を見てきた。子役っていうのは一
度人気が落ちると這い上がるのは難しい。元々の人気が高けれ
ば高いほど、落ちたあとは悲惨だ。今の君のようにね。残酷だ
けど、事実だよ。翔汰くんもその事実を無視しちゃダメだ」

翔汰はもう一度うなずく。元マネージャーにここまで言われ
るなんて、自分はやっぱりもうダメなんだろうか。

「だからこそ、復活のチャンスがあれば絶対に逃してはいけな
い。今回は最後のチャンスかもしれない」

「最後のチャンス……ですか」

「そう。どんな形であれ、先日の放送で翔汰くんは注目されて
いる。今はまだ一部の人たちにだけだね。元人気子役がオチン

チンを晒して頑張っつていうインパクトは、僕らが思った以上に大きかったんだ」

「はあ……」

「実は、あの放送を見て翔汰くんにドラマ出演の話が来ている。コメディホームドラマの主役家族の次男役だ」

「本当ですか!？」

「おっ、くいついたね。元々翔汰くんはホームドラマでデビューしたんだからね」

「はい」

最後のチャンスというマネージャーの言葉の意味が実感として湧き上がってきた。

もう一度、あの頃のように芸能界で輝きたいと願ってきた。

そのために、落ち目になってからも芝居の稽古は積んできた。

「ただし、条件がある」

「条件……」

「それが、『チン出し子役』になること」

「え、えーっと? 『チン出し子役』ってなんですか?」

「簡単に言えば、ドラマの中でオチンチンを出して欲しいってこと」

「それはつまり、お風呂シーンとかがあるってことですか?」

「ま、それも1つだね」

「わかりました。大丈夫です」

そのくらいならなんてことはない。

昔出演したドラマでも、お風呂のシーンはあった。

実際の所、1年生の時点で翔汰のオチンチン映像はテレビの電波に乗ってお茶の間にとどいていたのだ。

お祭りの撮影の時恥ずかしかったのは禪が脱げたというハプニングだったからだ。

「OK! そしたら来週のオーディションに行っしてほしい」

「オーディションがあるんですね」

つまり、まだ翔汰の出演は決定ではないということだ。

(それはそうか)

いきなり出演決定になるほど、今の翔汰は特別な子役じゃない。
い。

「なに、大丈夫。監督は翔汰くんを使いたいとハッキリ言っていた。ほとんど出来レースみたいなオーディションだよ。ただし、監督の要求に全て応えさえすればだけどね。そうすれば、問題無く合格できるはずだ。とはいえ、気を抜いたりはしないように」

「はい！」

それから5日後。翔汰はオーディション会場にいた。

会場となった大きめの会議室には、何人もの子役たちがいた。翔汰と何度か共演した子もいる。

今日のオーディションは主役一家の、長男役、長女役、長女役の3人をえらぶらしい。

もちろん、主演一家には選ばれなくてもクラスメイト役などに選ばれる可能性もある。

みんな緊張した面持ちだ。

そこに、監督、プロデューサー他のスタッフ、それにすでに一家の両親役に決まっている女優と男優も姿を現した。

子役のオーディション会場に俳優までやってくるのは珍しい。それはつまり、今回のオーディションだけでほぼ子役が決まるということだ。俳優は何度も子役オーディションに付き合うほど暇じゃない。

監督が代表して言う。

「今日はみんなお疲れ様。これから……」

説明の後、テスト用の短い台本を渡された。

10分だけ台本を読み込む時間を与えられて、すぐに台本は回収されてしまった。

それから3人ずつ呼ばれて隣の部屋で監督たちの前でお芝居をするというテストだ。

たった10分で台詞を覚えるだけでなく、自分なりに役柄を理解して演技をしなくちゃいけない。

かなり難しいテストだ。それだけ、一家の子ども達が重要な役柄なのだろう。

翔汰は4番目に呼ばれた。長男役候補と長女役候補の子も同時に1人ずつ呼ばれた。

翔汰は精一杯。次男役として演技をした。

長男役候補と長女役候補の演技は翔汰の目から見てもダメダメだった。

2人とも緊張でガチガチ。長男役の候補の子にいたっては台詞の半分も覚えられなかったようだ。

それにくらべて、翔汰の演技は自分でも上手く言ったと思う。

かつては人気子役として毎日のようにドラマやバラエティー番組の撮影に挑んでいた。

仕事が亡くなってからも、1日も休まず芝居の稽古に励んできた。

積み重ねてきた経験も努力も違う。

3人の芝居を見終えて、監督が言った。

「さすが赤貝くん！ すばらしい演技力だ」

男優や女優、プロデューサーらも翔汰の演技を褒め称えてくれた。

その一方で長男役や長女役の子の演技にはほとんど触れられない。それはつまり、2人はほぼ不合格決定ということだろう。

2人もそのことには気づいていたのだろう。部屋から退出するときには、露骨に肩を落としていた。

全員の演技テストが終わると、監督が長男役、次男役、長女役それぞれの候補の内3にんずつ残るようにと命じて、他の子達は帰宅させられた。

監督が言った。

「ここにいる9人は合格だ。ただし、一家の子ども役か、あるいはクラスメイト役かはまだこれから検討させてもらう」

「はい！」

仕事は射止めた。

だが、ホームコメディとなれば、一家の子ども役とクラスメイト役とは天と地ほど違う。子ども役は準主役とすら言えるが、クラスメイト役はモブに近い扱いとなるだろう。

「さて、長男役と長女役のオーディションは終了だが、次男役候補の3人は前に出てくるように」

（なんだろう？ まだテストがあるのか？）

疑問に思いつつも、ここで躊躇すれば悪印象を与えるだけだ。

次男役候補の3人は『はい！』と元気よく答えて前に進み出た。

監督は3人に言った。

「さてと、次男役の3人は、今この場で裸になってくれ」

いきなりの監督の指示に、翔汰以外の2人は目を見開く。

「え？」

「どういうことですか？」

一方、翔汰は先日マネージャーに呼び出されたときに言われた言葉を思い出した。

『チン出し子役』になることが条件。

今、翔汰たちはその覚悟があるかと問われているのだ。

だから翔汰はためらわなかった。

「はい！」と大きな声で答えて。他の2人がためらっている間に、トレーナーとTシャツを脱ぎ、ズボンもパンツも全部脱い

だ。靴と靴下まで脱いで、完全な全裸になった。

オーディション会場には長女役候補の女の子もいた。

女優もいたし、スタッフの中にも女の子がいた。

恥ずかしくないわけじゃない。

むしろ恥ずかしくてたまらない。

1年生の頃は平気でお風呂撮影もしたが、今の翔汰は小学4年生。2ヶ月後には5年生になる。すでに思春期の入り口に立っている。

同年代の女の子たちの前で全裸になるなんて、恥ずかしいに決まっている!!

(だけど、それがどうした?)

オチンチンをみせるくらいでドラマ出演できるならやってやる!

(僕がどれだけ苦労してきたと思っているんだ)

翔汰はオチンチンを隠すことなんてしなかった。

翔汰は堂々と、監督に、女優や俳優に、他の2人の次男候補に、長男や長女候補に、自分のオチンチンを見せつけてやった。

長女役候補の中には「きゃっ」と叫んで両手で目をふさいでしまう子もいた。その様子を見て、プロデューサーが何かメモをしている。

次男役候補のオチンチンの見たときの反応をテストされているのだろうか。

あるいは、長男役候補や長女役候補のテストもまだ終わっていないかったのかもしれない。

その時になって、2人の次男役候補が『はっ』とした顔をした。

命じられてすぐに裸をさらせるかのテストだと、ようやく気がついたようだ。

そのうちの1人は慌てた様子で上半身裸になり、ズボンも脱

ぎ捨てた。

だが、最後。ブリーフを脱ぐところになって、「うう」と声を上げてしまった。

恥ずかしそうに顔を赤らめ、周囲の様子を探って、それ以上動けなかった。

もう1人の次男役候補は躊躇しつつ上半身裸にこそなったものの、ズボンすら脱げなかった。

そして、翔汰が全部脱いだから3分後。

他の2人はおちんちんをさらす勇氣は出せなかった。

その様子を見て、監督が言った。

「よし、次男役は赤貝翔汰くんに決定だ。赤貝くん、よろしく頼むよ」

翔汰はにっこり笑って「ありがとうございます」と頭を下げた。

もちろん、その時もおちんちんもお尻も丸見えのままだ。

だが、翔汰は恥ずかしさよりも、ドラマの出演を射止めたことが嬉しくてたまらなかった。

全裸姿で、翔汰は両手を「よっしゃー」と握りしめていた。

(ここからもう一度だ！ 子役は返り咲けないことなんてないって、僕が証明してやる！)

こうして、元人気子役の赤貝翔汰は、チン出し子役として再ブレークの階段を上り始めたのだった！

第二話 赤貝翔汰くん、チンチン丸出しの体当たり演技で返り咲く

1 『チン出し子役』翔汰くん、ドラマ撮影スタート♪

翔汰はホームコメディドラマ『朝倉さんちの大騒動』の出演を決めた。

翔汰の役目は主役家族の朝倉家次男、朝倉ケンタ役だ。

ケンタは無邪気なはずらっ子。朝倉さんちで起きる騒動の火付け役みたいなキャラだった。

撮影は2月末、翔汰が4年生に進級する1ヶ月前から始まった。

今日は克蘭クイン。監督や出演者同士で挨拶やらなんやらをして、いよいよ撮影スタートだ。

ドラマの放送予定は4月～7月の3ヶ月で、全12話の予定。

翔汰はすでに第5話までの台本を渡されていた。

1話と2話は家族全員が主役のキャラ紹介的な話、3話は翔汰が演じるケンタが主役級の活躍をするコメディを全面に押し出した話、4話は長男・長女が主役のラブコメ的な話、5話は両親を始めとした大人たちが主役の職場を舞台としたドタバタ劇。

……と、どうやら毎回テーマを決めているらしい。

最初の撮影は第1話の冒頭シーン。

長女が二段ベッドの上の段で眠っているケンタを起こす場面だ。

「ケンタ！ 日曜日だからっていつまで寝てるのよ！ いい加減起きなさい！」

そう言って長女がケンタの掛け布団をバツと持ち上げる。

すると、布団の中のケンタは……つまり、翔汰は全裸で寝ている。

「うーん。まだねむいよお」

目をこすりながら言う翔汰。

「ちよっと、ケンタ！ また裸ん坊で寝たの？」

「いーじゃん、僕の勝手だろ！」

「ジョーダンじゃないわよ。同じ部屋に美少女中学生が寝ているってわからないの？」

「えゝ美少女？ どこころ？」

「あんたの目の前にいるでしょうがっ！」

「えゝ、僕には不細工お姉ちゃんしか見えないよゝんだ」

……こんなかんじで言い合う次男と長女の場面。

当然、翔汰はずっと全裸のままだ。

ケンタのいたずらっ子キャラを演じているから、裸祭りの時と違いオチンチンを手で隠すわけにはいかない。

それどころか、長女とやりとりしたあとベッドから飛び降りて

「へっへーんだ。チンチンぶくらんぶらん」

などとニヤニヤしながら長女に向かって挑発的にオチンチンを突きつけてブラブラさせてみせる。

「ケンタあああ！ いいかげんにパンツ履きなさい……！」

「やーだもん」

そう言って、翔汰は部屋から駆け出していく。

ここまででワンシーン。

当然のことながら、翔汰のオチンチンは長女だけでなく、監督スタッフその他みんなに見られてしまう。

もちろん、カメラも執拗にケンタのオチンチンを追う。

ドラマ冒頭で、いきなり話題のケンタⅡ翔汰のオチンチンを全面に押し出した演出だ。

次の撮影は、あらためて『チンチンぶくらんぶらん』のシーンの撮り直しだ。

今度は長女役ではなく、カメラにむかってオチンチンを突き

つけて揺らした。

カメラが翔汰のオチンチンを接写した。

先ほどの姉に追いかけて回されるシーンと上手く組み合わせ編集するのだ。

その後は裸ん坊で逃げ回るケンタを長女だけでなく、長男も一緒に追いかけて回すシーン。

長女はケンタの白ブリーフを振り回しながら「いいからパンツはけろ」などと叫んで廊下を追いかける。

次は両親がいるリビングに全裸のケンタが駆け込むシーン。

全裸ではしゃぐケンタを両親が叱るシーンを挟んで、ケンタは……つまり翔汰はようやくブリーフを身につけた。

これでオチンチンは隠せた。

次のシーンはケンタがブリーフ一丁で食パンを食べるシーンだ。

両親も兄&姉も、どうせ言っても家の中では洋服は着ないとあきらめて、せめてパンツだけでも穿かせようとしているという設定らしい。

あとで姉役が諦めの心境をナレーション的に吹き込むとか。

撮影はドンドン進む。

なにしろ2月末にクランクインで放送開始は4月。

時間は限られているのだ。

続いて朝倉家に宅配便がとどいて、母親が受け取る場面だ。

「ごくろうさまです」

そう言って伝票にハンコを押す母の後ろに、ケンタがブリーフ一丁で登場。

しかも、母にバレないようにブリーフの隙間からオチンチンをとりだして、またぶくらぶらとしてみせる。

それをみて、宅配便のお兄さんは「ぶっ」と吹き出してしま

母が訝しがって、ようやく背後のケンタに気がつく。

「コラッ、ケンタ！」

「へっへっへん。ちんちんぶらぶらだっくすい」

ケンタは調子に乗って、ブリーフを脱ぎ捨てて、おちんちんをぶくらぶら。

さらには後ろを向いて、四つん這いになってみせる。

「お尻もかわいいでしょー」

「ケンタあああ！」

母はこぶしを振り回して怒るが、宅配便のお兄さんは「元気でカワイイ子ですね」と大笑いする。

もちろん、ここまでを1回で撮影するわけじゃない。

何回かにわけて撮影して編集するのだ。

当然、ケンターー翔汰のおチンチンやお尻のドアップもあらためて撮影した。

(いくらなんでも冒頭から下ネタ多過ぎじゃね?)

ふと冷静になってそんなことを翔汰は思ってしまう。

たしかに笑えるかもしれないが、目くじらを立てる視聴者もいるのではないかと心配になってしまう。

(それにしても『チン出し子役』ってこういうことかよ)

このドラマ、翔汰が思っていた以上にケンタのおちんちんシーンが多い。

オーデイションで全裸になるテストがあったくらいだから、そりゃそれなりにオチンチンシーンもあるんだろうと覚悟はしていた。

だが、台本を渡されてみると『それなり』どころじゃなかった。

(後略)